

意欲的に学び、自他を大切にして、未来を拓く生徒の育成。

己 昨年度から国立教育政策研究所指定教育課程研究指定校事業「校種間連携」の指定を受けて、
評 久世三校と学力向上の研究を進めていたが、今年度は新型コロナウイルス感染の影響を鑑み、研
価 究指定を辞退した。しかし、学力向上の取組の方向性に相違はなく、コロナ渦の中、組織的な学力
向上の取組を推進し、学習確認プログラムで平均を上回る教科や学年が増えるなど、成果が表
れる場面も多く見られたが、解決すべき課題はまだ多い。

来年度は、学力向上の取組の意義、具体的な方策などの確認を徹底して行い、組織的な取組を推
進していきたい。

校 〇 子どもたち一人一人が、「授業がわかる、楽しい」など学ぶことに興味や関心を持つことが
関 大切であることを常に念頭に置きながら、授業改善など学力向上の取組を推進してほしい。
係 〇 久世の子どもたちの学びと育ちのために、今後も久世三校における小小連携を基盤とした
者 小中一貫教育をしっかりと連携して推進していただきたい。

- 確かな学力の育成に向けた授業改善。
- 家庭学習時間の習慣化。
- 読書活動の習慣化。

- ・毎時間、授業の目標を提示し、課題に応じたまとめと振り返りを行うことを徹底。
- ・言語活動の充実と、「思考力・判断力・表現力」などの効果的な育成。
- ・すべての教職員による年1回以上の授業研究の実施。
- ・小中合同教科主任会による学力分析と対策の検討とその徹底。
- ・授業にリンクした家庭学習課題の設定。
- ・学習確認プログラムの活用の徹底。
- ・久世三校合同研究発表会の実施。
- ・年2回の公開授業週間の実施。
- ・「久世スタンダード Ver. 2」（生徒版）の活用した学習規律の徹底。

- ・毎時間、授業の目標を提示し、課題に応じたまとめと振り返り行うことを徹底。
- ・言語活動の充実と、「思考力・判断力・表現力」などの効果的な育成。
- ・すべての教職員による年1回以上の授業研究の実施。

- ・小中合同教科主任会による学力分析と対策の検討とその徹底。
- ・授業にリンクした家庭学習課題の設定。
- ・学習確認プログラムの活用の徹底。
- ・久世三校合同研究発表会の実施。
- ・年2回の公開授業週間の実施。
- ・「久世スタンダード Ver. 2」（生徒版）の活用した学習規律の徹底。

2. 家庭学習の習慣化に向けて

- ・「久世三校版 家庭学習のてびき Ver. 2」の配布とその活用（生徒・保護者へ啓発）
- ・「家庭学習ノート」の活用。

3. 読書活動の習慣化に向けて

- ・朝読書の充実。
- ・学校図書館の利用啓発と、地域図書館との連携強化。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・学校評価アンケート

- ① 「中学校の授業がよくわかりますか」 1年：5 2年：4.7 3年：5.1
- ② 「授業の最初に目標が示され最後に振り返る活動がありますか」
1年：4.6 2年：4.1 3年：4.9
- ③ 「みんなに自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとしていますか」
1年：4.5 2年：4.3 3年：5.1
- ④ 「家庭で1時間以上学習していますか（学習塾・家庭教師など含む）」
1年：4.1 2年：4.2 3年：5.5
- ⑤ 「学校以外でも読書をしていますか」 1年：3.8 2年：3.6 3年：3.6

・学習確認プログラムの結果。

- 3年：学習確認プログラム st2 の総合結果は京都市平均を2ポイントほど上回っている。特に、英語や数学では3～4ポイント上回っている。
- 2年：学習確認プログラム st1 および st2 の総合結果はほぼ京都市平均程度であったが、その中でも理科は両方で平均を上回っており、しっかりとした学習の定着が見られる。
- 1年：学習確認プログラム st1 の総合結果は京都市平均と比べると6ポイントほど低く、学習の定着に課題があることがわかる。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

家庭学習に関する項目では3年生は増加しており、進路実現に向けて各自が努力していることがわかる。また、2年生もやや増加しており、次年度に向けて意識が高まっていることがわかる。しかし、1年生は減少しており、家庭学習の習慣が十分に見に付いていないことがわかる。

1年生から2年生の前半にかけて、家庭学習に取り組む姿勢が薄れているため、3年間を通して家庭学習に取り組めるような取り組みや働きかけが次年度以降必要であると考えます。また、読書に取り組む時間が少ないという課題が依然として全学年に共通しているため、意欲的に読書に取り組むための働きかけも続けていく必要がある。

	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>家庭で自学自習に取り組む以前に各教科の課題や提出物にも十分に取り組めていない生徒もあり、各自がやらなければならないことを把握して、計画的に学習に取り組むなどのマネジメント力を養う必要がある。そのことによって家庭学習の時間の確保や課題に自ら進んで取り組む姿勢を身に付けさせ、家庭学習の充実につなげていきたい。</p> <p>また、時間やスケジュールの管理を行う中で、読書時間の確保なども意識させることで、家庭で読書に取り組む意識を高めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>・3年生国語、社会、数学、理科、英語や2年生理科における学習確認プログラムなどの結果など、学力向上の取組のうち成果が得られた要因をしっかりと分析して、すべての教職員で共通理解してこれからの取組を推進してほしい。</p>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。 ○ 「おもてなしの心（目の前の人を大切にする精神）」の育成。 ○ 道德教育の充実。
<p><u>具体的な取組</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として、「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりの中で、参加するすべての生徒が<u>自己有用感を獲得</u>するよう、年齢の差、経験の差を利用したお世話活動を展開する。（中学生と園児など） ・そこで得た意欲や感情を定着させるため、十分な事前・事後学習の場を準備する。 ・校内に3年生をリーダーとした好ましい関係を構築するため、3年間を見通した取組の中で育てる。 「久世教育機関協働協議会」（保育園、小学校、中学校、児童館、図書館）が協働して、<u>あいさつと読書</u>を中心に取り組み、育ちと学びの連続性を高める。 「あいさつ」を通して、<u>人と人とのつながりを大切にする</u>など、コミュニケーション能力を育成する。

最終評価

<p><u>（中間評価時に設定した）各種指標結果</u></p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>⑥「楽しく学校生活を送っていますか」1年：5.9 2年：5.3 3年：5.8</p> <p>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」1年：5 2年：4.7 3年：5.5</p> <p>⑧「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」 1年：5.6 2年：5.6 3年：5.9</p> <p>⑨「相手の気持ちを考えて行動していますか」1年：5.5 2年：5.4 3年：5.8</p> <p>⑬「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」 1年：3.8 2年：3.6 3年：4.4</p> <p>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」1年：4.3 2年：3.9 3年：4.6</p> <p>⑮「今の自分が好きですか」1年：3.8 2年：3.4 3年：4.3</p>

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>「楽しく学校生活を送っていますか」、「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」の項目ではどの学年もわずかではあるが下降、もしくは横ばいの数値である。臨時休業にともない、7時間授業、行事等の中止、縮小化が原因だと考えられ、生徒が精神的に疲れている様子が伺える。</p> <p>「学校や社会のルールやマナーを守ることを心がけていますか」、「相手の気持ちを考えて行動していますか」では上昇、もしくは高い数値を示している。こどもたちの相手意識を考えた行動する力と規範意識が高まっていると考えられる。</p> <p>「クラスや学校の活動や生活の中で、人の役に立っていると感じていますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」、「今の自分が好きですか」では、それぞれの学年でわずかな上昇や下降する数値が見られるが、全体的に低い。こどもたちの「自己有用感」、「自己肯定感」が低く、行事等の中止、縮小化が理由で、教師側がうまく「しかけ」を作ることができていないことが考えられる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>普段の関わりや授業の中で、相手意識を持つことの大切さを浸透させる必要がある。相手意識を持つことの大切さを気づかせることにより、規範意識が高まり、思いやりのある行動やあいさつなどの普段の何気ない会話の大切さを気づくことができると考える。</p> <p>教師側は「自己有用感」、「自己肯定感」の育成について学校行事だけに頼らず、普段の授業の中で「いいところ」を見つけられるような授業の工夫や、教材研究をする必要がある。</p> <p>また教職員アンケートの「生徒に自己有用感を獲得させることを意識して、取り組みを進めること」と「生徒の自己肯定感を高めることを意識して、取り組みを進めること」は高い数値を示しているが、「ピア・サポートを軸とした小中連携を進めること」はそこまで高くはないで、実現度も低い。教師側も「ピア・サポート」についての必要性の理解が低くなっていることが考えられるので、研修などで「ピア・サポート」の重要性を発信する必要がある。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・新型コロナウイルス感染の影響で昨年度までの「ピア・サポート」活動ができない中、創意工夫して取り組まれている印象が伺える。学校運営協議会としても子どもたちの自己肯定感を育てる取組に寄与すべく、保護者や地域が「ピア・サポート」について学べる機会を考えたい。</p>

（３）「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的生活習慣の確立。 ○ 保健教育の充実。 ○ 防災教育の充実。 ○ 組織的な部活動の運営。

具体的な取組

1. 「久世教育機関協働協議会」において、「早寝・早起き・朝ごはん」及び「あいさつ」「家庭内のコミュニケーション」運動を展開することにより、望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる取組の充実を図る。
2. 1年生で「防煙教室」「ケータイ教室」、2年生「非行防止教室」、3年生「薬物乱用防止教室」と計画的に実施し、正しい知識を知り、自分で正しい判断ができるようにする。
3. スポーツや文化、科学など、生徒が自分の興味や関心に応じて自主的、自発的に活動する中で、それぞれの個性や能力を伸ばしたり、社会性や人間性を育む様々な経験を積んだり、生涯の友人を得たりする教育活動の一つとして、部活動を運営する。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

1. 学校評価アンケート

⑩朝食の喫食（実現度）

7月 1年生 6.1 2年生 6.2 3年生 6.3 保護者 6.0 教職員 4.5
12月 1年生 6.2 2年生 6.4 3年生 6.3 保護者 6.1 教職員 4.7

⑪7時間以上睡眠（実現度）

7月 1年生 5.6 2年生 5.1 3年生 5.0 保護者 5.1 教職員 4.7
12月 1年生 5.5 2年生 5.2 3年生 4.7 保護者 5.0 教職員 4.8

⑫将来の夢や目標がある（実現度）

7月 1年生 5.1 2年生 4.7 3年生 5.0 保護者 4.4 教職員 4.7
12月 1年生 4.7 2年生 4.6 3年生 5.0 保護者 4.5 教職員 4.6

2. 「非行防止教室」は、各学年、日程を調整して開催することができた。

3. 部活動については、運動部参加率 64%、文化部参加率 22%で昨年度より少し少ない約 86%の生徒が部活動に参加した。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・朝食の喫食率について、7月期と比べ3年生はほぼ同じだが、1年生と2年生は0.1～0.2ポイント上昇している。
- ・睡眠時間の確保について、7月期と比べ2年生は上昇しているが、1年生と3年生は0.1～0.3ポイント減少している。
- ・「将来の夢や目標がある」について、7月期に比べ3年生は変化ないが、1年生は0.4ポイント、2年生は0.1ポイント減少している。
- ・部活動について、コロナ渦によりさまざまな制約が多い中、目標に向かって自主的に活動する姿が見られた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・朝食の喫食率や睡眠時間の確保について、今年度もあまり変化がなく、基本的な生活習慣は定着しつつあると思われる。生徒会や久世PTA連合理事会と連携して、コロナ渦でも有効な取組を発信していく。
- ・生徒の生きる力の育成や豊かな学校生活の実現のために、多様な意義や効果をもたらす部活動の組織的な運営を推進する。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用や手洗いの励行，ソーシャルディスタンス，3密の回避など新しい生活様式に対応した学校生活に少し慣れたのではないかと思います。しかし，気を緩めることなく周りの人だけでなく自分自身を守るための行動を心がけてほしい。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 学校独自の取組

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進。 ○ 生徒の自己有用感を高め，自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。
<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小中合同教科主任会，小中合同授業研修会の充実。 2. 共同機構久世学校運営協議会（小中合同）の充実。 3. 学校運営協議会を支える学校支援推進委員会の充実。 4. 体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として，「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> 「クラスや学校の活動や生活の中で，人の役に立っていると感じていますか」 1年の生徒 4→3.8、2年の生徒 3.7→3.6、3年の生徒 4.1→4.4 「自分には，よいところがあると思いますか」 1年の生徒 4.4→4.3、2年の生徒 4→3.9、3年の生徒 4.4→4.6 「生徒に自己有用感を獲得させることを意識して，取り組みを進めること」 実現度 教職員 5.1→5 「生徒に自己肯定感を高めることを意識して，取り組みを進めること」 実現度 教職員 4.9→5.1 ・11月から12月にかけて、小中教員交流（久世中→大藪小・久世西小、大藪小・久世西小→久世中）を行い、4名の教諭がそれぞれの学校生活を1日体験した。 ・1月21日に久世中学校で授業研修会を行い研修し、数学、英語、音楽の教科でそれぞれの学校で授業を見て、事後研修をした。 ・今年度は小中での取り組みがあまり出来なかったため、教職員も生徒も数値が上がらなかった。
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小小連携、小小連携での例年のさまざまな取り組みが、今年は形を変えての実施や、行えなかった行事も多かったため、自己有用感・自己肯定感を高められなかった。 ・去年、取り組んできた校種間連携の取り組みである、“生徒指導から学力向上に目を向けた授業改善”を来年度は今年よりも工夫して組む必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携協力研究会議を中心に、久世地域の児童・生徒の実態に応じた付けたい資質・能力を教職員で共有し、授業改善を行っていく。

学校関係者評価	<div data-bbox="221 118 624 159" data-label="Section-Header"> <h4>学校関係者による意見・支援策</h4> </div> <div data-bbox="221 168 1444 302" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も当分の間，今年度と同じような状況が継続すると予想される。新型コロナ渦の中，子どもたちの自己有用感を高め，自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業をどのように進めるのか先進校などの情報を収集しながら，より有効な手立てを模索してほしい。 </div>
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------